

科目名	企画科目（こころのケアとは）				学 期	前期	単 位 数	2	担 当 者	山添正
副 題	-									
ナンバリング	N2-10-255	授業方法	講義	実務経験の有無	有			有	関連DP	2.3.

授業の目的と概要

心のケアの実践をする主体は、人であり、人と人との関わりの中でケアする訳である。場面を大きく3領域に分け、抽象的に学ぶのではなく、Corey教授の倫理のテキストとビデオを使い、各事例を視聴した後、ワークブックの問題に取り組む事で、倫理の学習を具体的に進める。

授業の到達目標

倫理の視点より、心のケアの問題を、①意思決定、②価値観と援助関係③境界の扱いと多重関係の三つの視点から理解する。

授業計画

1. 倫理的決定と7つのステップ
2. 十代の妊娠と守秘義務
3. Bigbrotherへの対処とカウンセラーの逆転移
4. 異文化（多様性）理解とIAT
5. 離婚と子どものケア
6. 価値観の葛藤：親からの自立と責任
7. 不倫と倫理
8. 面接室外での面接
9. 治療関係と友人関係
10. 治療関係と恋愛感情への対処
11. 出生前診断と障害児の中絶
12. 同性愛と“カミングアウト”
13. 安楽死と人生の終結の決断
14. 死刑囚をめぐるスピリチュアルな倫理的問題
15. まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、配布テキストの該当ページを毎回読み、内容を理解しておくこと（90分）、疑問点は授業で質問する。事前学したことと授業中に学んだことを踏まえて、授業最後の作文を書く。そして事後学習として授業で学んだ内容に関して、新たに考えたこと、生活の中で気が付いたことを、次回の授業で発言する。

テキスト

授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

ジェラルドコウリー、バトリックキャラナン2004年『援助専門家のための倫理問題ワークブック』創元社

学生に対する評価

レポート（30％）、発表（30％）、授業参加の積極性（40％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- （C）倫理の4領域の事例の状況について知識の上で理解ができています。
- （B）倫理の4領域の事例の状況について実践的に部分的理解ができています。
- （A）倫理の4領域の事例の状況について実践的に全体的理解ができています。
- （S）倫理の4領域の事例の状況について自分が対処できる自信がある。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業の最後実施する作文に書かれた質問や意見については、毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

トロント大学大学院留学で、心理臨床における倫理問題の教授方法を学び、臨床心理士の実務をつんだ教員が、倫理の問題を ①倫理的意思決定、②価値観、③境界と多重関係を3領域に分けて、教材化し、心理臨床における倫理問題を日本の事例で探求できる能力を身につけさせる。